

第160号

ほほえみ

09 11 8

日本は少子高齢化が急激に進んでいます。高齢化はとめることが出来ませんが、少子化は政策次第でストップできます。子を産む人が増え、安心して子育てができる環境を整える。それを進めるのが話題となっている民主党の掲げる「子ども手当」です。

少子化はどの程度進むのか。今、1億2800万人いる日本の人口は2050年には9000万人になると予想されています。3800万人の減少、静岡県が380万人ですから今後40年間で静岡県10県分の人口が減るということです。さらに、2100年には4500万人にまで減るといいます。一方、過去を振り返ると100年前の1900年（明治時代）には日本の人口は4400万人だったといえます。日本は100年の間に人口が3倍近くに増えて、今後100年で3分の1になるとということです。子どもは宝です。

<第173回 ほほえみの会 >

4名が参加しました。

▽小学4年生男子、悪性リンパ腫、学校を1日も休まない元気な子、顔のあごがはれてきたことから近くの医院に行き、総合病院を経て子供病院へ。抗がん剤治療に入ったがショックは癒えず、夫婦で毎日面会に通っている。

▽中学3年女子、急性リンパ性白血病。3年間の治療計画の中で、1年が過ぎた。高校進学を控えて地元の中学校に籍を戻した。でも学校ではインフルエンザが流行っていて行けない。中学校では親身になって相談に乗ってくれ、1、2年の成績を元に私立の高校を推薦してくれている。親は勉強はいつでもできると思うが、本人は今が大事だと言っている。

▽大学1年男子、急性リンパ性白血病を経験。13年前に退院をしてしばらく病気を忘れていたが、最近倦怠感がひどく、頭痛が続く。食べても寝てもこんなにだるい感じはおかしい、ということで子供病院で診てもらった。緊急でMRIをとってもらった上で、紹介状とともに神経内科医院を訪ねた。結局、偏頭痛ということで薬を出してもらった。本人も病名がわかり安心した様子で学校にも行き始めた。また、中学時代は全然勉強をしなかった息子だが、大学に行き始めてもう一度中学の勉強を塾に通ってやりたいと言い出した。

今回は、すぐに診てくれた子供病院に感謝。いざというときに診てもらえる安心感がある。が、19歳になり今後が心配。他の病院では診察でも、薬をもらうにもこれまでの病気をすべて話さないといけない。たとえば、各地の総合病院にカルテのデータが送られて、医師間のコミュニケーションを図ってもらい成人後も近くの病院で総合的に診てもらえるような仕組みがあってほしい。

▽先月、加藤ナースから最近の病棟の様子についてお話がありました。まず、この夏から院内に「緩和ケアチーム」ができたということです。緩和ケアというと終末期医療をイメージしますが、最近では治療中の痛みは我慢しないで和らげる医療が進められているということです。全国でも少なく、特に子供には薬の使い方が難しいということで、以前血液科にいて現在は聖隷病院でターミナルケアの研究をされている天野医師を招き、院内の心の先生や麻酔科の医師も交えた医療チームを編成して、毎週火曜日に子供一人一人のベッドを回って、その子にあった対処を考えていくということです。また、9月からはチャイルドライフスペシャリストの桑原さんが非常勤で採用されて子供たちの面倒を見てくれているそうです。さらに10月からは嘉数（かかず）真理子医師が血液科に赴任をされたということです。

次回は 12月 13日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>